

社会福祉法人恵の実
令和5年度 事業報告書

法人概要

1. 理念

ひとり一人の意欲を大切に、たくましく、かしこく、やさしく育つことを願いながら、発達の弱さをもつ子どもも含め、0歳から学童、大人まで共に育ち合う共同の子育てをめざします。

2. 行動指針

【社会的ルールの遵守（コンプライアンス）の徹底】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、関係法令、法人の定めた諸規程はもとより、法人の理念や社会的ルールの遵守を徹底します。

【環境保全・安全衛生の推進】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、地球的規模の環境破壊が進む中で、その抑止に日ごろから関心を持ち、取り組みます。
- ・ 利用者や地域の方と共に職場及び地域の環境保全と安全衛生に積極的に取り組みます。

【社会貢献の推進】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、地域や社会に根ざした法人であるために、社会貢献活動を行います。

【人権の尊重】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、差別のない公平な法人であるために、互いの個性や違いを積極的に認め合い一人ひとりが平等であるという考えの下に行動します。

【プライバシーの保護】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、プライバシーの保護に最大限の努力をします。

【個人情報の保護と管理】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、個人情報保護法等に基づき、個人情報の適正な取扱いを行います。

【公正・公平な取引の推進】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、公正かつ公平で健全な取引を行います。

【行政機関等との関係】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、自立した法人として行政機関と対等かつ健全な関係を保持します。

【説明責任（アカウンタビリティ）の徹底】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、利用者やその家族・後見人等に提供するサービスや関連する情報について、適切に説明する努力や工夫を行います。また、地域の理解と信頼を高めるために地域とのコミュニケーションを図ると共に、適切な情報公開、情報提供に努め、説明責任を果たします。

【危機管理（リスクマネジメント）の徹底】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、常に安全性に配慮したサービスの提供と事故防止に努めます。

3. 実施事業

○ 第2種社会福祉事業

保育所（恵の実保育園）

児童発達支援事業（恵の実「ホップくん」）

障がい児通所支援事業（恵の実「ステップくん」）

障がい児相談支援事業（相談支援事業所「恵の実」）

日中一時支援事業（日中一時支援事業所ホップ）

○ 公益事業

恵の実っ子クラブ

4. 役員

評議員	中島	徹英
評議員	井上	豊重
評議員	松井	恵美
評議員	安藤	千都子
評議員	小林	琢生
評議員	山内	博子
評議員	庄田	育代
理事長	尾崎	恵理子
理事	柳澤	友美
理事	菅沼	裕子
理事	鈴木	陽子
理事	鈴木	聡
理事	大森	妙子
監事	西本	全秀
監事	清水	正人

法人本部報告

1. 事業報告概要

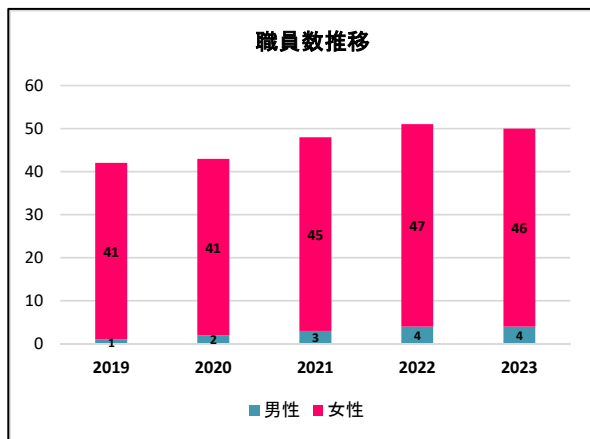
法人化14年目を迎え、長年の課題であった土地、駐車場の確保もされ、施設環境は一定整ってきた。その一方で、認可時に新卒採用した職員が子育て世代となり、子育てや介護をしながら働き続けられるように、職員の働きやすさを向上させてきた。また衛生委員会もスタートし、健康に働き続けられる職場を目指して就労環境も整えられ始めている。今後は世代交代に向けての人材育成や中期計画の新事業立ち上げを見越した人事配置・育成などが課題である。

2. 実施事項報告

➤ 職員状況について

(1) 採用・退職 (2024. 3. 31 現在)

施設名	採用者		退職者	
	正規	非正規	正規	非正規
恵の実保育園	1名	6名	1名	6名
ポップくん	—	3名	—	3名
ステップくん	—	1名	—	1名
恵の実っ子クラブ	—	—	—	1名
計	1名	10名	1名	11名



(2) 労災・傷病・休業 (2024. 3. 31 現在)

施設名	労災	傷病	介護休業	産休・育休
恵の実保育園	1名	—	—	1名
恵の実「ポップくん」	—	—	—	1名
恵の実「ステップくん」	—	—	—	—
恵の実っ子クラブ	—	—	—	—
計	1名	—	—	2名

(3) 平均勤続年数 (2024. 4. 1 現在)

法人全体	正規職員	契約職員	パート職員
平均勤続年数	7.8年	7.3年	4.4年

(4) 平均残業時間数

正規職員

施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員数	18	18	18	18	18	17	17	18	18	18	18	18
平均(時間)	3.7	1.4	3.3	1.9	3.4	1.1	3.5	2.0	2.3	2.1	3.4	3.1

契約職員

施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員数	8	8	8	8	8	9	9	8	8	8	8	8
平均(時間)	4.3	1.0	5.5	6.0	5.0	2.2	2.2	3.4	1.8	1.3	3.1	2.6

各事業利用者実績

施設名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
保育園	60	71	71	71	71	71	70	71	71	70	70	70	70	70.5
ホップ	10	11.2	10.9	11.4	10.5	10.4	11.5	10.6	10.4	9.7	11.1	9.9	10.8	10.7
ステップ	20	15.4	16.3	14.9	15.4	13.6	15.4	15.2	13.6	14.1	13.0	13.8	13.7	14.6
恵の実っ子	30	23	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24

助成金の状況

- ・ 赤い羽根共同募金 非常用発電機をいただいた。(恵の実「ステップくん」)
- ・ 一般社団法人荒川磯慈善会より AED をいただいた。(恵の実「ステップくん」)



理事会・評議員会の開催状況

会議名	開催日	主な審議事項
理事会	6月8日	(1)決議事項 第1号議案 令和4年度事業報告の件 第2号議案 令和4年度決算報告の件 第3号議案 経理規程 改訂の件 第4号議案 任期満了に伴う新役員候補推薦の件 第5号議案 任期満了に伴う新評議員候補推薦の件 第6号議案 辞任に伴う評議員選任解任委員選任の件 第7号議案 定時評議員会 開催の件 第8号議案 土地購入の件

		<p>第9号議案 積立金 積立の件</p> <p>第10号議案 令和5年度第1次補正予算の件</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>報告第1号 監事監査報告</p> <p>報告第2号 赤い羽根共同募金交付決定の報告</p>
評議員会	6月24日	<p>(1) 決議事項</p> <p>第1号議案 令和4年度 決算報告の件</p> <p>第2号議案 令和5年度 新役員選任の件</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>報告第1号 令和4年度 事業報告の件</p> <p>報告第2号 監事監査報告</p>
理事会	6月24日	<p>(1) 決議事項</p> <p>第1号議案 理事長選任の件</p> <p>第2号議案 業務執行理事選任の件</p> <p>第3号議案 評議員選任解任委員選任の件</p>
理事会	11月14日	<p>(1) 決議事項</p> <p>第1号議案 就業規則改訂の件</p> <p>第2号議案 個人情報保護規程および個人情報保護方針の件</p> <p>第3号議案 職員駐車場管理規程 改訂の件</p> <p>第4号議案 駐車場整備 随意契約の件</p> <p>第5号議案 保育所施設・施設整備積立金 取り崩しの件</p> <p>第6号議案 令和5年度 第二次補正予算の件</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>報告第1号 理事長・業務執行理事の報告</p> <p>報告第2号 令和5年度 上半期決算報告</p> <p>報告第3号 赤い羽根共同募金施設整備助成金による非常用発電設備設置の件</p> <p>報告第4号 土地売買契約の件</p>
理事会	3月12日	<p>(1) 決議事項</p> <p>第1号議案 令和5年度第三次補正予算案の件</p> <p>第2号議案 経理規程 改訂の件</p> <p>第3号議案 就業規則 改訂の件</p> <p>第4号議案 社会福祉法人恵の実 感染対策指針 制定の件</p> <p>第5号議案 職員駐車場管理規程 廃止の件</p> <p>第6号議案 苦情解決要綱 改訂の件</p> <p>第7号議案 令和6年度事業計画案の件</p> <p>第8号議案 令和6年度当初予算案の件</p> <p>第9号議案 恵の実保育園 運営規程 改訂の件</p> <p>第10号議案 恵の実「ステップくん」運営規程 改訂の件</p> <p>第11号議案 恵の実「ホップくん」運営規程 改訂の件</p> <p>第12号議案 相談支援事業所「恵の実」運営規程 改訂の件</p> <p>第13号議案 恵の実っ子クラブ運営規程 改訂の件</p> <p>第14号議案 積立金 積立の件</p>

		第 15 号議案 定款変更の件 第 16 号議案 評議員会開催の件 (2) 報告事項 報告第 1 号 行政監査報告
評議員会 (書面開催)	3 月 27 日	(1) 決議事項 第 1 号議案 定款変更の件

➤ 所轄庁による監査

- ・ 愛知県健康福祉部 社会福祉法人等指導監査 令和 6 年 1 月 23 日 実施
指導事項無し

➤ 次世代の育成

- ・ 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定、厚生労働省の公表サイト（両立支援のひろば）に公表した。
- ・ 子の看護休暇および介護休暇の有給化、短時間正社員制度の導入、職員休憩環境の整備等、職員の働きやすさ向上のための整備を行った。
- ・ 新入職員（パート職員含む）向けに、法人理念やさくらさくらんぼ保育に関する勉強会を定期的に開催し、理念の浸透、サービスの質の向上、職員の意欲の向上に寄与した。

➤ 防災・安全管理

- ・ 衛生委員会規程に則り、衛生委員会の開催、産業医の訪問を受け始めた。（全 5 回）
- ・ 職員 1 名が、衛生管理者免許を取得し、衛生管理者としての業務を開始した。
- ・ 12 月にストレスチェック（対象者：37 名）を実施した。
- ・ 法人として、災害用および感染症用業務継続計画を策定し、ホームページに公表した。
- ・ 消防署と連携し、重傷者を想定した救急訓練を実施した。
- ・ 災害対策用品（毛布等）の整備を行った。

➤ 施設整備

- ・ 利用者駐車場の確保のため、新たに土地を購入し、駐車場用に土地の整備を行った。
- ・ ステップくんの中学生受入れのため、ステップ棟に隣接する土地を購入し、運動場として利用を開始した。
- ・ 保護者の作業協力により、園庭に木製の滑り台およびアスレチック遊具の設置を行った。
- ・ 火災通報装置の不備があることがわかり、入替を行った。
- ・ 農地として借りていた柿畑の契約終了に伴い、整備作業を実施し、年度内に返却を完了した。



- 地域連携
 - ・事業所ごとの報告を参照。

- 苦情および意見

＜苦情＞

No.	事業所	内容	対応
1	恵の実保育園	フリー職員の子どもへの関わり方に不信感を抱いた。	該当職員への指導を行うと共に、今後は該当職員の入るクラスに配慮する。
2	恵の実「ステップくん」	事業所で保管している医薬品についての管理や知識が不十分ではないかと指摘を受けた。	事業所内の医薬品関係を整理し、使用方法等について再確認。児童に医薬品を使う際は、保護者の同意を得て使用することを周知した。

＜意見＞

No.	事業所	内容	対応
1	ホップくん	四つ這いで移動しているお子さんの手足に床板のささくれが刺さった。	第2ホールのささくれが目立つ為、レールを交換。他のレールについても順次交換していく。

- その他

・福祉サービス評価センターによる第三者評価を、保育園、恵の実「ホップくん」、恵の実「ステップくん」にて実施し、結果をホームページに公表した。

3. 次年度の課題

- 業務継続計画に則り、防災対策強化のため、施設の整備、備蓄品の確保を行う。
- 施設および備品の老朽化に伴い、助成金等を活用し、計画的に修繕や備品の入替をすすめる。
- 働き続けやすい職場にするために、職場環境の整備、就業規則の改訂を行う。
- 仕入れ先の見直しなどにより、間接コストの削減を行っていく。
- 勤務表についてアプリケーションの導入を考え、作成管理を簡素化する。

恵の実保育園

1. 保育目標

- ① 「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。
- ② 自然の中で仲間との体験活動を通して、たくましさ、やさしさ、かしこさや生きる力を育てる。
- ③ 人と交わる力を育て、0歳から大人まで育ち合う。
- ④ 優れた絵本、一流の芸術、文化にふれ、豊かな感性を育てる。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 子どもも親も仲間集団の中で育ち合えるような保育を目指す
 - ・ 各行事や保育活動に、できるだけ保護者も参加してもらう。
 - ・ 保護者同士も休日と一緒に遊ぶなどして親睦をはかり、仲良くなる。
- ② 各職員が保育や子どもの発達を学び、年齢に応じた保育について深める
 - ・ クラス会や保育報告会などに向けて、報告をまとめる際に書籍など使い学習を深める。
- ③ 世代交代に向け、クラスを越えて保育を検討できる職員集団を目指す
 - ・ 総括会議や各部会、年齢部会などを通してチームで保育を検討していく。

3. 2023年度 利用者数実績

<恵の実保育園>

定員： 60名

登録者数： 70名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3
1歳児	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4
2歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
3歳児以上	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
合計	71	71	71	71	71	70	71	71	70	70	70	70

<一時預り事業>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	11	7	6	7	6	5	5	7	8	8	8	8	86
利用回数	37	23	25	25	25	22	9	36	54	47	50	51	404

<ミニ保育体験>

市内の未就園児とその保護者を対象としたミニ保育体験を6月から月に1回実施した。8月、10月は行事の兼ね合いによりお休みした。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
利用者数	14組	10組		19組		11組	7組

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4月	入園進級式、 春の散歩、苺狩り	新入園児世帯には園生活について説明した。卒園生の苺農家で苺を収穫させていただき、その場で食べたり、調理して楽しんだ。

5月	端午の節句 畑づくり 春の登山	鯉のぼりを飾り、無病息災を願った。福井牧場に牛糞を取りに行き、畑に撒き、耕すなどして、苗の植え付け準備をした。 宮路山、本宮山、御在所岳などに登り、新緑を楽しんだ。
6月	野菜の苗植え、ホテル合宿、ヤマモモ採り	ナス、ピーマンなどの夏野菜の苗を植えた。東栄町にホテルを見に行ったり、愛知子どもの国にヤマモモやピワを採りに出かけた。
7月	七夕、プール遊び、川遊び 白馬八方尾根登山合宿 夏野菜の世話・収穫	七夕のお話を聞いて七夕飾りを作り、七夕祭りに向けて飾った。 高山植物を見ながら白馬八方尾根に登り、二泊三日の合宿をした。 収穫を楽しみに、畑の草取りや水やりなど、世話をした。
8月	プール遊び、川・海遊び 夏野菜の世話・収穫	プールや川で培った泳力でもって海へ行き、海遊びを楽しんだ。 夏野菜を収穫し、夏野菜カレーを作ったり、バーベキューをした。
9月	お月見、縄編み合宿 集団遊び	お月見団子を作ったり、ススキや萩を飾り、お月見のお供えをした。 布を裂き、色を選び、自分の縄跳びを根気強く作った。
10月	運動会	夏に培った体力を支えに、運動会という大きな節目の行事に向かって、仲間と協力して挑戦し、達成する喜びを味わった。
11月	秋の散歩、秋の登山 芋堀り、大根堀り	季節の変化を感じ、秋の自然物を見つけたり、五感で楽しむ。 根菜の収穫を楽しむと共に、地面の下への認識を広げる。
12月	クリスマス会 冬の散歩	クリスマスの雰囲気を楽しみながら、冬の制作を楽しむ。
1月	雪遊び合宿、七草摘み、まりつき、こま回し、凧あげ	そり遊びやかまくら作りなど、雪遊びを楽しむ。 七草のいわれを知ったり、日本古来からの行事を楽しむ。 季節の変化を感じ、冬ならではの遊びを楽しむ。
2月	節分 草滑り、春の散歩	節分のいわれを知ったり、日本古来からの行事を楽しむ。 草滑りを楽しみながら、何度も斜面に登り、身体をつくる。
3月	ひな祭り、春の散歩 卒園式、卒園旅行	ひな祭りのいわれを知り、春の制作を楽しむ。 在園児は年長児の卒園を祝い、卒園児は巣立つ喜びを感じる。

5. 地域支援

- ・ 豊川市市政 80 周年記念事業の食育シンポジウムのパネラーとして発表をした。
- ・ 赤塚山公園のリニューアルに際し撮影会への園児参加の依頼を受け、記事が広報に載った。
- ・ 中部福祉保育医療専門学校より実習生 1 名の受け入れをした。
- ・ 岡崎女子大学の自主実習生 1 名の受け入れをした。
- ・ 地域の子育てリズムサークル、学生（日本福祉大学）、近隣市町村の保育園（新城市、四日市市）へ向けてのリズム指導をした。

6. 保護者会

- ・ 草笛おじさん（加茂光廣さん）をお呼びして草笛コンサートを開いたり、『劇団うりんこ』の劇を見る機会を設けた。
- ・ 餅つき大会をおこない、子どもたちが良い文化にふれる機会を作ってきた。

7. ヒヤリハット・事故報告

- ・ ヒヤリハット 4 件
- ・ 事故報告 0 件

8. 安全管理

- ・ 年間の職員会議で、嘔吐処理、プール、熱中症対策、誤飲・誤嚥、マムシ・蜂・外来種の対策、火の始末、着衣着火、頭部腹部のケガ、乳幼児突然死症候群について対策を認め、マニュアルに基づいて安全管理を実施してきた。
- ・ 感染症について
溶連菌・アデノウイルス（プール熱）、下痢嘔吐、インフルエンザの対策について学習した。
- ・ 災害時の安全対策として、救急車を呼ぶ際の訓練をおこなった。
- ・ BCP（事業継続計画）を策定し、被災時も滞ることなく事業がおこなえるようにした。

9. 環境整備

- ・ 保護者の協力のもと、畑の土留めを作成し、作物が実りやすい畑にした。
- ・ 園庭の草抜きにシルバー人材センターの方の力を借りたり、草刈り、水路の清掃も保護者と共におこない、大変美しく整備することができた。
- ・ 園庭の砂場に砂と土を補充した。
- ・ 門扉やテラスの板、建具など老朽化した箇所を随時修繕している。
- ・ 保護者の協力のもと、滑り台の横に網の遊具を作成してもらうことができた。



10. 保護者支援

- ・ 保護者への理解と協力を促進するため、クラス会の実施、各種おたよりの発行、連絡ノートの実施、行事の計画と実施を行った。
- ・ 育児相談にのると共に、育児相談記録票をい豊川市子育て支援事業と連携して子育て支援を行った。

11. 次年度の方針と課題

- ・ 職員の備品の取り扱い方、片づけ方、掃除の仕方など、以前より改善されてきたと感じるが、次年度は部会の際に検討する時間を設けるなど、職員一人ひとりがより意識的に環境を整えることができるようにしたい。
- ・ 引き続き災害対策を進めると共に、地域と連携して子どもたちの安全確保が図れるようにする。
- ・ 働き続けやすい職場にできるように、担当主義にならず補い合っていける職員集団を目指す。

児童発達支援事業 恵の実「ホップくん」

1. 療育目標

- ① 「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。
- ② 恵の実保育園と連携した交流保育の中で、仲間と共に様々な体験をしながら、子ども同士の関わり合い、育ち合いを大切にする。
- ③ どんなに障がいが高くとも、人間の育つ道筋は同じである。一人一人の発達に合わせて、ゆっくり丁寧に積み上げていく。
- ④ 大人が安心して子育てに向かえるよう、親同士のつながりを作り「子育て」と「親育ち」を学んでいけるようサポートする。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 子どもひとりひとりの「たべる」「ねる」「身体の発達」という生活の基盤について現状を把握し、ひとりひとりの課題を明確にする。保護者と生活の基盤づくりの大切さを学び合い、各家庭に合わせた工夫をしながら、保護者と共に生活の基盤をしっかりと育てていく。
 - 連絡ノートや送迎時に保護者とお話しすることで、家庭での生活リズムについて把握し、お子さんの様子と照らし合わせながら、今大事にしたいことを一緒に考える時間を取るようにした。
 - 成長・変化を感じた時には、その姿を保護者と共有して喜びを共感しあうことを大切にした。
 - 親子活動（川遊び・海遊び・アスレチックなど）を行い、休日の遊びのフィールドを広げたり、安全に楽しく遊べるやり方を共に遊びながら伝えるようにした。
- ② 子どもが育つ道筋を大切にし、“子どもひとりひとりの本当の願い”を考え合い深めていく。
 - 各種会議（クラス・部会・ホップ会議）で、子どもの様子や課題などについて話し合い、複眼的な視点で一人一人の子どもの姿を捉え、発達段階や、いま一番大事にしたいことを考えた。
 - 学習会や研修に参加し、職員一人一人の知識を深める機会を持つようにした。
- ③ 保護者が「子どもが育つ」ということを学び、子育てに自信が持てるようにサポートする。
 - 定期的に茶話会を開き、子育ての悩みを保護者の仲間同士で分かち合ったり、職員やOBの話聞くことで心配事を解消できるような機会を大切にした。
 - 保護者の表情や連絡ノートの記載事項、おしゃべりの中で気づいた困りごとなどを、なるべく早いうちに面談することで、胸の内を吐露したり共感しあったりしてきた。
 - 保護者の必要な情報を、わかりやすく提供できるようにし、確認を重ねることを心掛けた。

3. 2023年度 利用者数実績

定員： 10名

登録者数： 12名（毎日利用12名）

平均利用率： 89.1%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日	21	20	22	21	21	20
延べ利用者数	235	217	250	221	218	230
日平均	11.2	10.9	11.4	10.5	10.4	11.5

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	23	23	21	20	21	21	21
延べ利用者数	243	240	206	221	208	226	226
日平均	10.6	10.4	9.8	11.1	9.9	10.8	10.7

- ・ 12月と2月の利用率がそれぞれ82%、83%と他の月と比べると低いですが、これは、アデノウイルス、インフルエンザや胃腸風邪が施設内で流行し、欠席児が多かったためである。

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4月	春の散歩、苺狩り たけのこ堀り、野草摘み（親子交流会）	事業所外へ出かけ、春の恵みを自分で取り、調理して味わった。親子交流会では新入所世帯と在所世帯とで散歩や調理を行い、交流を図った。
5月	端午の節句、春の登山、展望台散歩	新緑を楽しみながら階段や斜面を昇降することで、目で見て考えて足を動かすことが自然に行えるような活動を繰り返し行った。
6月	ホテル合宿、ヤマモモ採り、色遊び（にじみ絵）	少人数で色遊びをしながら、色の変化を楽しんだ。また、その時楽しんだ“にじみ絵”を七夕製作に使用した。
7月	七夕、プール遊び、川遊び ホップ単独海遊び	保護者も一緒に海へ出かけ、海で五感を働かせて楽しむことや、どうやって遊び楽しむかを学んだ。子どもたちは少人数で共感関係を大切に楽しんだ。
8月	親子川遊び	遊びやすい川を紹介し、安全に川遊びを楽しむ方法を保護者に伝えながら子どもたちと一緒に楽しんだ。
9月	お月見、アスレチック	肋木や小滑り台を組み合わせて作ったアスレチックに挑戦し、「もう一回！」と何度も繰り返し楽しんだ。
10月	運動会	運動会当日まで仲間と関わりながら力をつけ、当日は大勢の観客の前でそれぞれが持つ力を精一杯発揮した。
11月	親子遠足、リズム学習会、秋の登山	木々の葉が色づく中、季節の入れ替わりを楽しみながら、親子一緒に公園へ出かけ、体をめいっぱい使う遊び方を学びながらアスレチックを楽しんだ。
12月	提灯お披露目会、クリスマス会、餅つき	やがて来るクリスマスに心を躍らせながら、リースやブーツなどのクリスマス飾り作りに取り組んだ。
1月	雪遊び合宿、草滑り	5歳児が長野県小谷村に出かけ、降り積もった雪に大喜びで遊んだ。草滑りでは仲間と一緒に工夫して遊んだ。
2月	節分、日帰り雪遊び	木・牛乳パック・色画用紙などを使い、自分で自分の升を作って豆まきを行った。 4歳児が牧歌の里にてそり遊びや雪合戦を楽しんだ。
3月	ひな祭り、卒園式	刷毛を使って和紙に描く色遊びを楽しみ、その和紙を使ってお内裏様とお雛様を作った。

5. 地域支援

- ・ 児童発達支援事業所共有会議への参加

6. ヒヤリハット・事故報告

- ① ヒヤリハット 16件
- ② 事故報告 1件：

木登りの際、ヤマモモを落とすために枝に座ってゆすったところ、座っていた枝が折れ、着地の時に顔に擦り傷ができた。保護者も引率で来所していたため、報告および状態を確認して頂き、経過を観察。その後異常なく、以後の病院受診も無し。

7. 安全管理

- ① ヒヤリハット・事故について、職員会議や年齢部会にて発生状況と対策の周知を行った。
- ② 職員会議にて嘔吐処理、怪我の応急処置、プール活動（プールマニュアル）、熱中症対策、誤飲・誤嚥についてマニュアルの確認を行った。特に誤飲・誤嚥については、窒息事故などを学び、気道異物除去法についての実技を行った。
- ③ 他園での遊具等の事故についても情報共有を行った。
- ④ 避難訓練や緊急時対応訓練の実施

8. 環境整備

- ・ 恵の実ホール前のトイレに手すりを設置
- ・ 引き戸のローラーやレールを交換（劣化による摩耗）



9. 次年度の方針と課題

- ① 1月に第三者評価を実施。当事業所の「特徴」は何か、療育の質はどのような状態かを利用者にとってだけでなく、職員間で見直すことで改善策を検討できた。すぐに取り組めることと、法人全体での取り組みが必要なものは時間をかけて行う必要があることなど、検討事項の優先順位をつけ、サービスの底上げを目指す。
- ② 管理者および児発管不在時における権限委任等について明文化するなど、サービスの均質化およびマニュアル整備・作成を法人全体で取り組んでいく。
- ③ 引き続き保護者支援を充実させ、保護者が家庭での子育てに自信が持てるよう、またホップくんでの子育てに安心できるようサポートしていく。
- ④ 今後も職員会議等でヒヤリハットの内容を検証し、衛生管理委員会や虐待防止委員会と連携して療育内容や職員のメンタルヘルスケアを行っていく。
- ⑤ 事業所自己評価を実施し、事業所の療育や運営に生かしていく。
- ⑥ 次年度に向けた新規利用希望者の見学や申し込みを受け付けていく。
- ⑦ 社会福祉協議会を通し、2024年8月に中高生のボランティア受け入れを実施予定。

日中一時支援事業所ホップくん

1. 事業目的

日中において監護する者がいない等の理由により、一時的に見守り等の支援が必要な障がい児等について、日中の活動の場を提供し、見守り及び恵の実保育園と連携した交流保育の中での育ち合いによる療育の実施等の便宜を供与する。

2. 重点目標の取り組み状況

⑧ 児童の健康管理

「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。

⑨ 保育園児との交流

毎月のお誕生日会や年中行事に参加し、四季折々の祝い事を園児と交流しながら楽しんだ。

⑩ 安全管理

火災、竜巻、地震、不審者侵入などを想定した避難訓練を他事業所と協力し合って行った。

3. 2023年度 利用者数実績

定員： 10名

登録者数： 10名

平均利用率： 77%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日	19	20	22	20	19	20
延べ利用者数	156	164	177	156	139	162
日平均	8.2	8.2	8.0	7.8	7.3	8.1

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	21	20	18	19	19	20	19
延べ利用者数	174	148	121	156	150	122	152
日平均	8.3	7.4	6.7	8.2	7.9	6.1	7.7

4. ヒヤリハット・事故報告

- ヒヤリハット 0件
- 事故報告 0件

5. 次年度の方針と課題

- 職員会議等でヒヤリハットの内容を検証し、虐待防止委員会と連携して療育内容や職員のメンタルヘルスカアを行う。
- 次年度に向けた新規利用希望者の見学や申し込みを受け付けていく。

相談支援事業所「恵の実」

1. 事業目的

障がい児（以下「利用者」という）及びその家族の子育てに関する不安を軽減し、また利用者が適切な療育や支援を受けることで各年齢を豊かに生活することができるよう、ニーズの整理及び情報の提供、障害児支援利用計画作成、サービスの調整等の適切な相談支援を行うことを目的とする。

2. 重点目標の取り組み状況

① 障がい児利用援助

- ・ 今年度、週4日の営業日となったが、計画作成の件数については昨年度とほぼ同じ件数となっている。登録者数は昨年度に比べ10件増えた。
- ・ 昨年度に比べ、中学生や高校生の受け入れが増えている。

② 継続障がい児支援利用援助

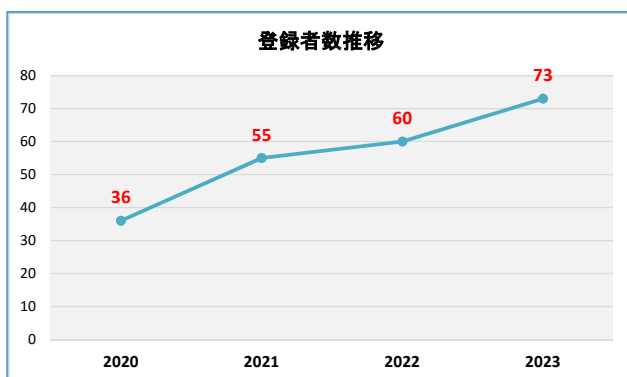
- ・ 未就学児19名中11名が年長児であり、次年度の就学先を保護者と一緒に検討したり、放課後等デイサービスへの切替えのため新たに利用できる事業所を探すことに時間を費やすことが多かった。
- ・ 不登校や不登校気味の児童が数名おり、学校や福祉、医療と連携をし、また地域のインフォーマルな資源（地域の居場所ボランティア、登校支援のボランティア等）も利用しながら支援を行っている。
- ・ 虐待疑いの要保護児童ケースもあり、子育て支援課や学校等とも情報を共有しながら虐待の抑止に努めている。
- ・ 医療的ケア児のケースもあり、退院後の在宅ケアに備えて訪問看護等を手配するなど、関係機関を集めたケアカンファレンスなどを実施していく手配を進めている。

3. 2023年度 利用者数実績

登録者人数 73名

(未就学児 11名、小学生 48名、中学生 11名、高校生 3名)

-	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
計画作成	5	5	5	9	7	2	4	9	12	6	10	24	8.2
モニタリング	21	26	20	16	19	17	20	18	9	19	13	10	17.3



4. ヒヤリハット・事故報告

- ・ ヒヤリハット 0件
- ・ 事故報告 0件

5. 次年度の方針と課題

- ・ 令和6年度障害福祉サービス等報酬改定における改定内容を把握し、必要な体制整備を行うと共に、利用者や保護者へのサービスの質を向上させることで収益の向上につなげられるよう努力する。
- ・ 年齢の高い利用者の方を、成人を専門とした相談支援事業所に引き継いだり、ブラジル国籍の方を、ポルトガル語を得意とする相談支援事業所に引き継ぐなど、利用者の方にとっての利益も考慮しながら引継ぎを行い、未就学児等の新規受け入れができるよう循環をさせていく。
- ・ 困難ケースについては、豊川市障害者相談支援センターや豊川市福祉課などと情報を共有し、豊川市の地域課題として一緒に考え合っていく。
- ・ 今後も、相談員がケースを抱え込まないよう、管理者と連携しながら情報共有をし、一緒に検討し合っていく。

放課後等デイサービス 恵の実「ステップくん」

1. 療育目標

- ① 子どもにとっても、保護者にとっても事業所が安心できる場所であり、信頼できる場所となるよう努める。
- ② 恵の実っ子クラブと連携した交流活動の中で、子ども同士の関わり合い、育ち合いを大切にし、“人が大好き”という土台を豊かに育てていく。
- ③ 仲間と共に様々な体験をしながら、主体性と人としての心の豊かさを育てる。
- ④ どんなに障がいが高くとも、人間の育つ道筋は同じである。一人一人の発達に合わせて、ゆっくり丁寧に積み上げていく。
- ⑤ 職員と保護者が共に子どもの育ちを考えていけるよう、保護者の想いを共有し合う機会や保護者が学ぶ機会を設け家族支援を行う。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 職員が保護者の話を“聴く”ことを大事にし、まずは保護者の想い(願い)に寄り添うことを心掛ける。保護者の様子、家庭環境等を考慮し、家庭で取り組めることを保護者と一緒に考えていく。
 - 6か月に1回以上の定期的な個別面談の実施。
 - 定期的な茶話会の実施。5月には、OBの先輩母さんを招いての茶話会を実施した。
 - 保護者がお迎えに来た際には、できるだけ一人一人の保護者に声をかけ、事業所での様子を伝えるだけでなく、家庭での様子を聞き取り、保護者の困り感に迅速に対応できるよう努めた。
- ② 子どもが育つ道筋を学び、“子どもひとりひとりの本当の願い”を考え合い深めていく。障がいのある子もない子も“共に育ち合う”ことと、ひとり一人に合わせた個別支援とを組み合わせながら、ひとり一人に合わせた療育を組み立てていく。
 - 定期的な職員会議を実施し、一人一人が表現する葛藤の姿を、保護者との情報共有も含めて丁寧に分析し、目には見えない子どもたちの悩みや願いについて考え合い、個別的配慮や活動計画、支援方法等に反映させてきた。
 - 恵の実っ子の仲間との“育ち合い”ができるよう、恵の実っ子の職員と連携しながら、活動計画を立ててきた。
 - 毎日開所前に、その日の活動予定、子どもや保護者についての情報共有や配慮点等を確認し合う打ち合わせの時間を確保。
 - 職員が外部研修に参加できるよう斡旋し、研修参加後は、職員会議の中で研修報告をし、職員皆の学びとしてきた。
- ③ 仲間との活動を通して、ひとり一人が自分自身に手ごたえを感じ、自己肯定感の土台を育てていく。
 - 仲間や大人と一緒に身体を動かして思い切り遊ぶ時間を保障。
 - クッキングや制作など、ひとり一人の得意な力を活かして“作る”ことを楽しむ。そして、誰かが「ありがとう」と言ってくれる機会につなげてきた。
 - 生活のひとつひとつをその子なりの力で頑張ろうとする機会を保障し、その頑張ろうとする姿をしっかりと認めて共感し合っていくことを大事にしてきた。
- ④ その年齢にふさわしい様々な体験活動を楽しみ、生活の豊かさを作る。保護者と共に、将来への展望が持てる療育を目指す。
 - 季節ごとの体験活動を実施。

- 学校の長期休みには、事業所外での社会体験を実施。
- 高学年会や中学生活動を実施し、上級生に憧れが持てる機会を作ってきた。
- 保護者とともに、就労施設への見学を行った。

⑤ 中学生の居場所づくりを充実させていく。

- 中学生を中心とした畑活動の実施。
- 夏休みには中学生合宿の実施。
- ステップ棟の最高学年として、リーダー的役割を担っていく。

3. 2023年度 利用者数実績

定員： 20名

登録者数： 23名（10月に1名退所。22名中、他の事業所を併用している児童 10名）

平均利用率： 72.9%

-	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	21	21	22	21	20	20	22	22	20	19	18	21	20.6
延べ利用者数	324	343	328	323	271	308	336	300	282	247	249	288	300
日平均	15.4	16.3	14.9	15.4	13.6	15.4	15.3	13.6	14.1	13.0	13.8	13.7	14.6

- ・ 8月と9月は延べ利用者数が昨年度よりも減少してしまった。8月は、延べ利用者日数の予定が329日だったのに対し、実績は271日であった。また、9月も延べ利用者日数の予定は335日だったのに対して、実績は308日であった。
- ・ 今年度新たに3名の児童が利用開始となり、当初は昨年度よりも収入の見込み増として考えていた。しかし、新規利用児のうち1名が学校と事業所の利用の両立が難しくなり6月以降欠席が続き、10月に退所となった。また、8月には台風での休所や、夏休みということもあり家事都合での欠席が多かった。8月、9月には、夏風邪やコロナ、インフルエンザ等での欠席も多かった。
- ・ 1月、2月には、学校でインフルエンザが流行し、欠席者が多くなった。

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4月	竹の子掘り ふるさと公園 畑の土壌づくり 牛糞をもらいに行く	近くの竹林へ歩いて竹の子掘りにでかけた。（事前に許可を申請して実施） 休日の親子活動として実施。 畑の石拾いや草取りをし、福井牧場へ牛糞をもらいに行き土壌づくりを行った。
5月	草笛コンサート 畑の土壌づくり 夏野菜の苗を植える	法人全体での草笛コンサートに参加 畑を耕運機で耕し、もみ殻を撒き、夏野菜の苗を植えた。
6月	サツマイモの苗植え 大豆の種まき プール作業 白川を愛する会	苗植えや種まきは中学生を中心に行い、その後の畑の管理も中学生を中心に行ってきた。 プールを作るための土壌づくりや土嚢運びを恵の実っ子の仲間と一緒にを行った。 地域の方と一緒に白川の土手の草取りを行った。
7月	川遊び、海遊び、プール 買い物体験 恵の実っ子との昼食づくり 畑の世話	プールや川遊び、海遊びと、水を楽しむ活動を思い切り楽しんだ。 恵の実っ子との交流活動も兼ねて、FEELにおやつの買い物体験にでかけた。 恵の実っ子の仲間と一緒に縦割り班を作り、班ごとに一緒に昼食を作ったり、一緒に食事を楽しんだ。
8月	プール、川遊び、畑の世話 恵の実っ子との昼食づくり 陶芸体験	講師を招き、陶芸体験を行った。

	夏祭り 夏合宿（6年生以下） 中学生合宿	子どもたちと一緒に準備も楽しみながら、保護者の協力を得て小さな夏祭りを実施。 6年生以下は、本宮の湯を体験しながらの1泊の合宿を実施。中学生は、「食育」をテーマにした合宿を実施。
9月	プール 運動会遊び 畑の世話	9月中旬までプールを楽しんだ。プールが終わってからは、散歩や運動会に向けた集団遊びをたくさん楽しんだ。
10月	運動会遊び	運動会に向けて、集団遊びをたくさん楽しんだ。恵の実っ子の仲間と一緒に、どの子も楽しめるよう、ルールの工夫を考え合って取り組んだ。
11月	表現活動 マルシェ サツマイモ堀	一人一人の個性を活かして表現活動を行い、マルシェで作品展示を行った。また、マルシェでは子どもたちと一緒に『喫茶ステップ』を行い、いろいろな人との交流の場となった。
12月	クリスマス会 大豆作業 草滑り、大掃除 忘年会	クリスマスの雰囲気を楽しみながら、冬の制作を楽しむ。 仲間と役割分担をし協力し合いながら、大豆の収穫を行った。 草滑りを楽しみながら、何度も斜面を登り体を作る。 保護者や兄弟姉妹を招いて一緒に夕食を食べ、映像で1年を振り返る忘年会を実施。
1月	焚火、色遊び、正月遊び マリつき、凧あげ	散歩に行っては薪を拾って焚火をし、焼き芋を焼いたりポップコーンを作ったりと、火を囲んでの活動を楽しんだ。
2月	節分、草滑り 大根掘り	OBの方の畑で、大根掘りを体験。掘った大根で漬物を作成。
3月	高学年ファミレス体験 卒所式 ステップお祝い会 高学年卒所旅行	高学年は、恵の実っ子の仲間と一緒にファミレス体験をし、卒所旅行では鞍ヶ池公園へ出かけ外食体験をして、仲間との時間を楽しんだ。 ステップ棟での卒所を祝うお祝い会を行い、みんなで6年生をお祝いした。

毎月、散歩（夏以外）、リズム、集団遊び、季節の制作、おやつ作り、誕生日会を実施。

5. 地域支援

- ・ 放課後デイサービス連絡会への参加
- ・ 白川を愛する会への参加

6. ヒヤリハット・事故報告

- ・ ヒヤリハット 11件
- ・ 事故報告 2件
 - 園庭のやぐらで遊んでいた際に転倒し、転倒した際に手を木杵に打ちつけてしまい骨折。
 - 赤塚山公園を散歩中に、追いかけてっこをして遊んでいた際につまづいて転倒。それにより剥離骨折となった。

7. 安全管理

- ・ 年間の職員会議で、嘔吐処理、プール、熱中症対策、誤飲・誤嚥、マムシ・蜂・外来種の対策、火の始末、着衣着火、頭部腹部のケガ等について、事故事例なども確認しながら対策を確認してきた。誤飲・誤嚥については、窒息事故などを学び、気道異物除去法についての実技を行った。
- ・ 応急手当講習（心肺蘇生、AED）を職員全員受講。
- ・ 感染症について
溶連菌・アデノウイルス（プール熱）、下痢嘔吐、インフルエンザの対策について学習した。

8. 施設管理・環境整備

- ・ 非常用発電設備の設置
- ・ AED の入れ替え
- ・ ニワトリ小屋周辺のネットの設置
- ・ ステップ棟玄関扉の修繕
- ・ 園庭や駐車場の草取りなどの環境整備

9. 次年度の方針と課題

- ・ 令和6年度障害福祉サービス等報酬改定における改定内容を把握し、必要な体制整備を行うと共に、利用者や保護者へのサービスの質を向上させることで収益の維持及び向上につなげられるよう努力する。
- ・ 法人の中期計画の通り、18歳以降の障がいを持つ方の、「共に生きる居場所づくり」に向けて、地域福祉のニーズを調査し、具体的に事業内容の検討・計画を行う。また、中生活動の充実を図る。
- ・ 新たに整備した災害対策や感染症対策について、職員皆で話し合いながら、より実働的なものへと見直しを進め、子どもたちの安全確保が図れるようにする。
- ・ 設備においては、木造部分の劣化が進んでいるため、修繕を実施すると共に、定期的な環境整備を実施し、心地より環境づくりに努める。

公益事業 恵の実っ子クラブ

1. 保育目標

- ・主体的に生活を作り、自律へと向かえる生活力を育てる。
- ・自由な心とそれを支える自由な身体をつくる。
- ・大自然を楽しむ力を育てる。
- ・教える力を育てる。
- ・自ら学ぶ力を育てる。
- ・自ら危険を回避できる感覚を育てる。
- ・表現活動を楽しむ。
- ・どんな状況の中でも希望を見出していける楽天性を育てる。
- ・仲間の中で意見を出し合い、集団的に解決していける自治能力を育てる。
- ・様々な人との関わりを通じて、その生き方を学ぶ。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 子どもたちが遊び惚けるための「時間」「空間」「仲間」の3つの間を保障していく。
 - 園庭だけでなく、散歩先の広場でしっぽ取りをしたり、野球のできる公園にでかけたりした。
 - 1～6年生が自由に遊ぶことで様々な年齢の集団ができ、時には園児も含めて遊ぶこともあった。
- ② 五感を使って自由に発想を展開していく遊びや活動を行う。
 - 低学年や弱さのある子も一緒に遊ぶ際には独自ルールを考えたりしながら遊びを展開する姿があった。
 - 海・山・川などの活動で五感を使い、自然科学の不思議さや面白さを学んだ。
- ③ 子ども、保護者、職員それぞれが個の充実を図り、集団としての充実を図っていく。
 - 高学年会や班活動を通し、日々の出来事の話合いや関わりの中で自己の存在価値を実感できる機会を大切にした。
 - 学童親の会と連携して学習会を実施（9月、11月、2月）。発達や社会情勢について学び、感想を出し合ったり意見交換を行った。
 - 保護者への引率活動の参加誘致や報告会で意見を交わし、交流を深めた。

3. 2023年度 利用者数実績

定員： 30名

登録者数： 24名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日	21	21	22	21	20	20
日平均	23	23	24	24	24	24

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	22	22	20	19	18	21	20
日平均	24	24	24	24	24	24	24

* 6月より1年生1名が入所

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4月	たけのこ掘り、野草取り、クッキング	竹林で取ってきたたけのこや野草を天ぷらや炒めものにして食し、春の味覚を楽しんだ。
5月	春登山 冒険旅行	低学年は悪天候により実施できなかったため、保護者が自主的に行った（岩古谷山）。中学年・高学年は御在所岳に登った。 3年生が冒険旅行を実施。南知多グリーンバレイへ出かけた。
6月	本宮山トレイルランニング 白川を愛する会	全学年と参加希望の保護者17名で本宮山トレイルランニングを実施。 白川を愛する会の方々と草刈、コスモスの苗植えを行った。
7月	水と山の安全学習、川遊び、プールあそび、海合宿	水と山の安全学習は保護者向けに実施（保護者0Bによる講演）。福井県の手の浦海岸や長篠の川や学童プールで存分に水の活動を楽しんだ。
8月	自然合宿、夏登山	新城市の旧門谷小学校にて全学年参加の「自然合宿」を実施。縦割り班で協力して暮らした。 低学年は乗鞍岳へ、高学年は木曾駒ヶ岳（西駒）での登山を実施した。
9月	秋登山	中学年が硫黄岳での登山を実施した。
10月	運動会	1～6年生全員の縦割り班による障害物リレーを行った。班長の高学年を中心に各班で教え合い、相手に伝える難しさを感じつつ試行錯誤しながら取り組んだ。玉入れや毎年恒例の鈴割りも行った。
11月	リズム学習会	今年度は週に1～2回、日常保育で定期的にはリズムを行ってきたこともあり、リズム学習会に臆することなく参加する雰囲気が学童全体にあった。
12月	沖縄平和学習、 クリスマスリース作り	今年は5-6年生親子で沖縄平和学習の旅を実施した。振り返りでは「後進の親御さんに伝えたい」という意見が多く挙がり、5-6年生は作文を書いて親の会で読み上げ、平和学習に参加した保護者も自らが学んだことや感じたことを自分の言葉で伝える機会となった。
1月	低学年スキー合宿 編み物	やぶはら高原スキー場にてスキー合宿を実施。安全管理を見直し、子どもたちは全員ヘルメットを着用（レンタルも利用）して行った。
2月	3～6年生スキー合宿	低学年スキー同様、やぶはら高原にて実施。インフルエンザ流行により複数名が欠席となった。その後、保護者同士が協力し、合宿に参加できなかった子も1回はスキーに行けたとの報告あり。

3月	卒園卒所式、6年生を送る会 卒所旅行	卒園卒所式にて、5-6年生は11月から練習してきた“太鼓”を披露した。卒所旅行は2年前から目標にしていた「北海道」へ。つむぐ輪マルシェに出店するなど、自分たちで資金を集め、多くの方に募金もご協力頂き、無事到達できた。募金のお礼に卒所旅行新聞を作り、自分たちの写真と共に送った。
----	-----------------------	--

5. 地域支援および地域連携

- ・ 白川を愛する会への参加

6. ヒヤリハット・事故報告

- ・ ヒヤリハット 1件
- ・ 事故報告 0件

7. 安全管理

- ・ ヒヤリハット・事故について、職員会議や年齢部会にて発生状況と対策の周知を行っている。職員会議にて嘔吐処理、怪我の応急処置、プール活動（プールマニュアル）、熱中症対策、誤飲・誤嚥についてマニュアルの確認を行った。特に誤飲・誤嚥については、窒息事故などを学び、気道異物除去法についての実技を行った。
- ・ 他園での遊具等の事故についても情報共有を行った。
- ・ 避難訓練や緊急時対応訓練の実施

8. 施設管理・環境整備

- ・ 柿畑の整備
- ・ 駐車場砂利の掃き入れ
- ・ スコップや鋤簾などの道具整備

9. 次年度の方針と課題

- ・ 報告会や学年毎の親の会で、子どもの様子について丁寧に報告し、家庭での様子を情報共有する場にする。
- ・ 学童親の会と連携し、外部講師を招いた学習会を行い、学齢期の発達や保護者自身の学びになるような機会を設ける。
- ・ 卒所したOBOGと現役恵の実っ子たちが共に遊び、交流できる活動日を複数回設ける。
- ・ 感染症の拡大防止に努め、各種活動を保障していく。
- ・ 法人内他事業所と連携して避難訓練や緊急時対応訓練を実施すると共に、BCP整備に伴うマニュアル作成などを行う。